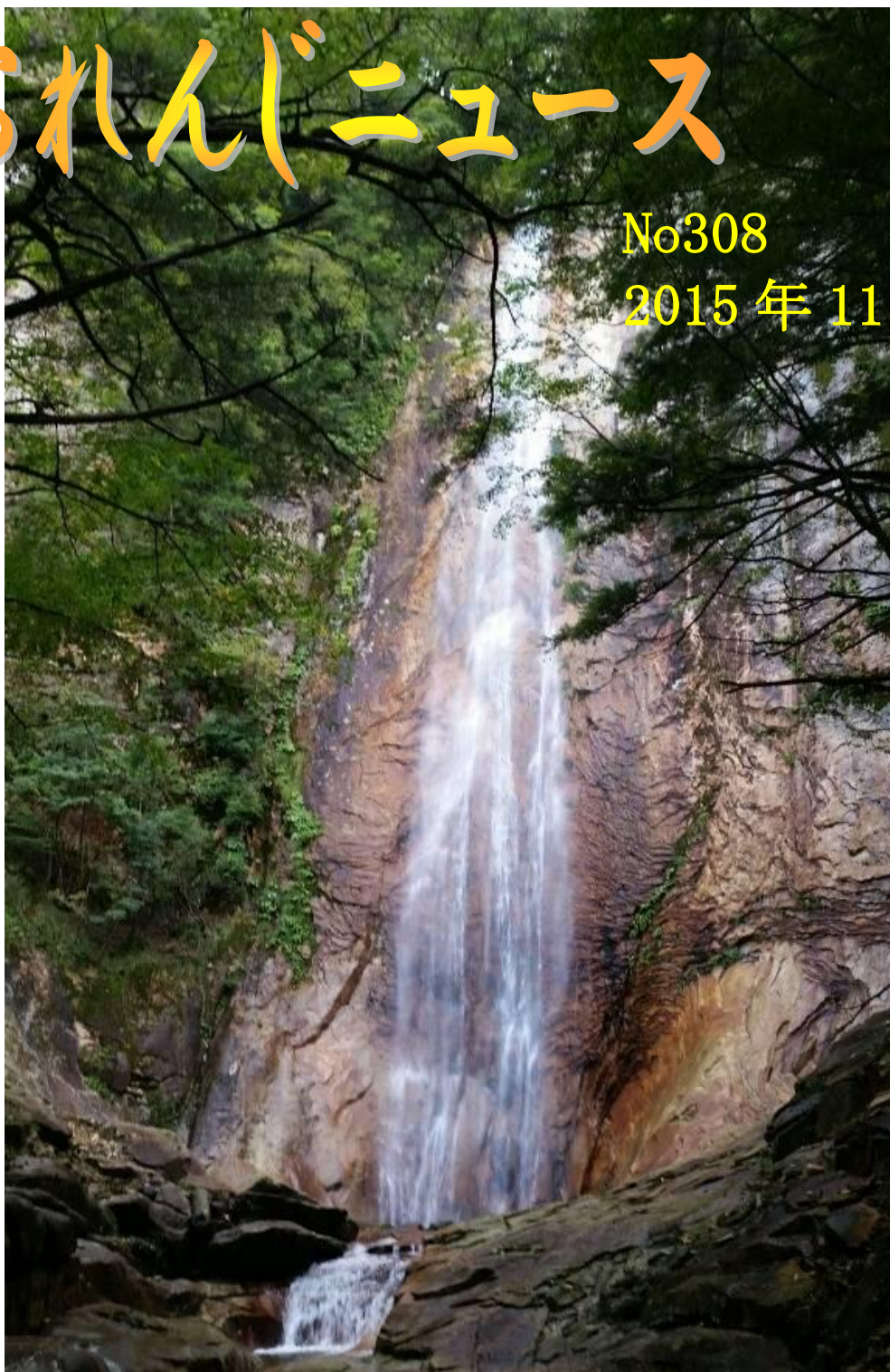


# おれんげニュース

No308

2015年11月号



9/20  
宮崎県、木山内岳  
の中腹に存在する  
観音の滝  
鱗岩がみごとだっ  
た

今月号の記事

あたらしい仲間、大花山・二合半・鳥甲、風観岳、元気の出る集会 in 鹿児島、  
木山内岳、高見山・女岳・鬼木の棚田、石谷山・九千部山、倉岳・矢筈岳

	2015年11月	2015年12月	時 間	場 所
運営委員会	10日(火)	8日(火)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	25日(水)	23日(水)	19:00~21:00	

# 9月20日 木山内岳は朝早い出発でした



9/20 金立のSAから見た朝日



藤河内溪谷の綺麗な流れ



家ほどの大岩を横に見ながら



滑りそうな橋を渡って。



# 9月22日 鬼木の棚田にもいきましたよ。案山子&人間？



## 2015 / 11 月の山



部	自然保護部	ひまわり山行部	技術研修部	山行部
月/日(曜)	11/8(日)	11/13(金)	11/22(日)	11/28(土)
山名(行事)	有馬キリシタン遺産記念館・原城跡	古処山(859.5m)	四王寺山(410.0m)	田原山(鋸山)
地 図	口ノ津	甘木	大宰府	若宮
集合場所 時間	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
体力度・ 技術力	体力・1 技術力・1	体力・2 技術力・1	体力・2 技術力・1	体力・1 技術力・2
帰着時間	18:00	18:00	17:00	19:30
歩行時間	3.5h	5.0h	4.5h	3.0h
交通手段	マイクロバス	マイクロバス	マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	真砂の湯	無し	二日市温泉	有
参加費	2,000円	5,000円	5,000円	5,000円
申込期限	随時	定員になり次第	11/20	11/25
集 約	山口	林	山下文代	高森
特記事項	島原、原城跡、日野江城跡、キリスト教関係資料館等回ります。西望記念館も	天然記念物のツゲの古木の下を通ると、縦走路に出会います。紅葉も見ごろになっている事でしょう。	大城山(おおぎやま)と言われるように都府楼前から坂本の大石垣や百間石垣を眺めて歩きます。	オオコマユミの紅葉の時期に熊野磨崖仏に祈り、奇岩を登る。切り立った岩峰の様子から鋸山とも呼ばれています。
感想文提出	11/18	11/23	12/2	12/8

### 技術研修部だより

#### セルフレスキュー

11月21日(土) 西諫早駅前 9:30 集合  
 12月26日(土) // // レスキュー納めです

11月14日(土)～15日(日) 田代原でキャンプ  
 14日 1時西諫早駅出発 吾妻岳登山 15日 九千部岳登山  
 申込は川原まで



## 2015 /12 月の山行



部	自然保護部	ひまわり山行部	山行部	技術研修部
月/日(曜)	12/6(日)	12/11(金)	12/15(火)	12/20(日)
山名(行事)	猿葉山 364m	諫早街道歩き	裏英彦山	金立山
地 図	愛野	諫早	英彦山	広滝・佐賀北部
集 合 場 所	西諫早駅 8:00	諫早神社 9:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 7:20 西諫早駅 7:30
難 易 度	体力 1 技術 1	体力 2 技術 1	体力 2 技術 1	体力 1 技術 1
帰 着 時 間	16:00	15:00	20:00	17:00
歩 行 時 間	3.0h	4.0h	7.0h	3.5h
交 通 手 段	マイカー	帰り、公共交通機関	マイクロバス	マイクロバス
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	?	無し	有り	?
参 加 費	1000 円	交通費のみ	5,000 円	3,500 円
申 込 期 限	随時	12/9	12/7	11/25
集 約	山口	林	高森	山下文代
備 考	赤い鳥居を沢山くぐって猿葉稲荷神社にお参りし千々岩海岸の眺めをたのしみます。	長崎街道の脇往還である諫早街道を初めて歩く。最初は小江か湯江まで歩く。	高住神社よりのぼり、龍水峠、鬼杉登山口へおります。これが完了すると裏英彦山道の完結になります。	吹上観音で今年の無事山行の御礼参りをします。2つの展望所からの眺めも素晴らしいですよ。
感想文提出	12/16	12/21	12/25	12/30

### 「あたらしい仲間」

**\*Y.M さん** 登山経験なし(ヨガ・エアロビクスなどの運動は週 1 回くらいやっています)健康維持・体力維持が目的・寒がり解消。自然の中で自分を鍛えると共に癒されたい近場の山でハイキング気分から始めたいです。(11 月から入会)

**\*K.K さん** オレンジ HC の皆さん、ご無沙汰しました。「山はもういいか」と思っていたが、先日の東部労山の 50 周年記念山行に参加し、昔の仲間と顔を合せて、やっぱり山に行きたくなりました。ブランクが長いので遭難しないよう、ゆっくりのんびり歩きたいと思います。よろしくお願いします。

(10 月から入会)



## 2015 年 9 月 / 10 月の山

9 月 11 日 (金)

### 大花山 (875m) ・ 二合半 (799m) ・ 鳥甲岳 (769. 4m) ひまわり山行部

(参加者) 間ノ瀬 松岡 小熊 山下(ち) 吉川、

(行 程) 西諫早駅 8:00—南川内シャクナゲの里公園 8:45(小熊氏合流)—摩利支天 10:30—鳥甲岳 10:24—二合半岳 10:50(昼食)—大花山 13:14—シャクナゲの里公園 14:20—諫早着 15:30

(感想) 今日の山行は多良山系 鳥甲岳から二合半岳 そして大花山への縦走 秋晴れで清々しい天気恵まれマイカー2台に分乗して目的地を目指したが...もう1台の車のタイヤがパンクしそのうえレッカーされる始末 合流できないとの連絡が入る



ええええ～ 総勢 14 名の参加なのにたったの 5 名に。ラッキーなのかアンラッキーなのか? 周りを見渡すと健脚の大先輩が 4 人 私について行けるのか不安に思う。9:30 鳥甲岳登山口 摩利支天の赤いと言うよりはサビで茶色に変色した鳥居をくぐり山道に入る まず摩利支天へと向かう。10:00 には到着ほんの少し足をのぼすと木刀やおもちの刀が奉納されている小さな神社らしき場所があった 文武両道の神様らしい 10:05 来た道をいったん引き返して鳥甲岳へ ここから先頭が



変わったのか? スピードが早い早い!! □ トレラン(トレイルランニング=山野を走る競技)かと思うほどの早さ 前に行く M 氏は完全に小走りだ 私も遅れじとついて行く 10:25 鳥甲岳に到着 早々に二合半岳をめざす ここからの道がなかなかの急登 繰り返されるアップダウンに息があがる 私の疲れを感じとってくれたのか M 氏が休憩しまし

ようと声をかけてくれた 11:25 休憩 たわいのない会話の中でつい笑ってしまうと笑顔が出てからまだ大丈夫! との励ましをもらった 11:55 二合半岳に到着し昼食 さてさて合流できなかったグループはどこにいるのか? 電話してみた 街道を歩いて鈴田峠で食事中との事 電話の向こうに笑い声が聞こえてホッとした

> 昼食を終えて 12:30 大花山へ 標識にそって進むと林道に出た 林道の向い側に登山口があった なかなか勾配が急な道 ロープが張ってあるので ロープに力を借りて 13:15 大花

山頂上に到着 急な登りではあったが距離が短かったのがありがたかった 無事3つの山の縦走に成功\(^o^)/

> 帰り道 林道を歩いているとM氏がオオルリ(鳥)を発見 オオルリはお腹が白く渡り鳥なのでめったに見られないと教えてもらった

> 今回の山は3つとも低山だけど勾配があり登りごたえを感じた山々だった。途中経ヶ岳の姿もきれいに見る事が出来て今度はあそこに登ってみたいと思った 今日もし楽しい一日を過ごしました 皆さんありがとうございました(^ ^) (吉川記)

9月11日(金)

### 風 観 岳 (ひまわり山行部)

(参加者) 福岡、林(孝)、山下(文)、田中(静)、田村、山口、林(和)、佐藤 (8名)

(行程) 西諫早駅前 8:05→大神宮神社 10:10→旧長崎街道鈴田峠 11:10→風観岳 11:20→旧長崎街道鈴田峠 11:30→同所発 12:15→破笹井バス停 13:00 同所で解散 13:15

(感想) 上記の8名は、小山さんの車にお世話になり西諫早駅前を出発し、下大渡野バス停を過ぎて間もなく「パーン」という大きな音がした。何の音だろうと思った途端、車がかたがたと音をたてたのでパンクしたことが分かった。

あとはJAFの方が来てくれるのを待つばかり、30分位したらJAFの車が到着、ここではスペアタイヤの交換は出来ないということで、小山さんの車はレッカー車で牽引されて行ったので、小山さんともお別れすることになった。

残った8名、これからの対応について、福岡さんから「ここで解散するか、それともどこかの山に登るか。」とのご相談があり、山口さんが「風観岳に登ろう。」とのご提案に皆が賛同し、大村からの登山口をめざして歩きだし、途中国道沿いの鈴田峠の饅頭店で各自饅頭を買い、そこで腹ごしらえをし、国道沿いの登山口をめざして歩きだし、やがて大神宮神社へ到着、お参りをし、出発しようとした途端、福岡さんと林(孝)さんから、「感想文はあんたにお願いするね。」との指名があったので、やお



らメモ紙を取り出しメモすることにした。

大神宮神社にお参り後、旧長崎街道を風観岳めざして登り始めて暫くしたら、急な坂道が続き、4名のヤングマンと4名のシルバーに自然と区分されヤングマンとシルバーとは歩く速さが違い、あつという間にヤングマンの姿が見えないようになった。

シルバーの中の一人が「この道は初めて登るよ。」と、それに対し「これも小山さんの車のお陰でいい経験ができたでしょう。」と言いながら登っているう



ちに檜や竹や、かつ葉樹に覆われた陰道になり、おまけに地面も土でなだらかな道になり楽になった。

暫く歩いていたら大村市教育委員会による旧長崎街道鈴田峠の説明板が立てられており、それによると大村藩と佐賀藩諫早領との藩境となったのが鈴田峠ですと、また大村藩と諫早領についての歴史的な事項も標記されていた。

そこから北に向かって10分位歩いていたら目的地に到着、石を何段も積み重ねた三角塚があり、そこで田村さんに記念写真を撮ってもらい、記念撮影が終わり下山、鈴田峠の木陰で弁当を食べ、12時15分破籠井をめざし旧長崎街道を歩きだしたが、シルバーの4人はヤングマンから離されながら下っていき13時に破籠井のバス停に着き、13時15分解散し各々家路に着いた。

風観岳は、ハイキングコースで旧長崎街道を歩き、大村藩と諫早領についての歴史の勉強も出来、また、楽しい山登りであった。

(佐藤 記)

9月12日～9月13日

### 元気の出る集会 in 鹿児島 (県連・九州ブロック)

(参加者) 川原、松岡、松田、高森、中須賀、國分、工藤、佐原、鎗水 (9名)

(行程) 西諫早駅6:30～金立SA7:30～加治木JCT10:30～国分PA10:40/10:50  
～鹿屋串良JCT11:25～国立大隅少年自然の家12:00

(感想 1) 諫早から鹿屋までは遠いな!と思ったが、高速と立派なバイパスが通っているので意外と快適に1時間も早く到着した。しかしやはり5時間半は遠い。

12日4分科会では各自希望の講座に出席した。専門家の貴重な話ではあったが、専門的であればあるほど睡魔に襲われるようだ。失礼!

夜、173名もの交流ではワイワイガヤガヤ。誰々と話したか分らない。

13日は5コースに分かれて山や沢や散策に出かけた。会場の近くに1000mを超える山があるとは知らなかった。1時半くらいには戻らないといけないのでゆっくりはできないが、晴天のもと楽しめたようだ。帰りは海沿いの一般道を走り、桜島を間近に見、道の駅で買い物をして加治木ICから高速に乗った。

後はバスの中ではHさんのギターで合唱(?)というか宴会というか、唸る人もあり、いつものパターンであった。それにしても鹿児島の方々には大変ご苦勞をおかけしました。感謝申し上げます。

(鎗水 記)

(感想 2) 9月12日～13日、天気もまあまあで鹿児島大隅へ、13日私は御岳妻岳登山に参加しました。29人が6班に分かれ8:30登山口を出発、いきなり急登で934mの電波塔へ、御岳までも結構



きつく山頂 1181mに着いた時はハアハアでした。遠くに開聞岳を望み感慨にひたる間もなく妻岳へ、勿体ない位に下り登りを繰り返して、妻岳 1145mに着いた。山頂は狭いので御岳に戻り昼食、眼下に錦江湾、志布志湾を望み、その雄大な景色に感激しました。



高隅ホトトギス、やまじのホトトギス、みかえり草、りんどうなどの花々にも心癒されました。

解散後、帰途に就くバスは歌声バスになり佐賀の人達と楽しく過ごしました。天気にも恵まれ楽しい2日間でした。鹿児島の方々の おもてなし 感謝の一語です。お世話になりました。

(高森 記)

**(感想 3)** 20150912—13 九ブロック元気の出る集会(於：大隈青少年自然の家)

第14回元気の出る集会にオレンジ会員9人の一人として参加した。現地までは佐世保こもればの1人、佐賀労山の11名計21名と一緒にマイクロバスでの往復であった。

長崎県連としては長崎市内各会、個人会員の計12名とオレンジ・こもればの計10名合計22名の参加であり、県連一緒にバスでの方法もあったが佐賀県からの要請もあり、今回は佐賀県との一緒に方法となり往復時のバスの中での佐賀・オレンジの交流もできた。

1日目は4分科会があり小生は登山と気象・観天望気に参加した。資料をつかって山との関係のある気象の話ののち質疑応答方式であった。他の講座は山の歌に4、いつから山に登り始めたかに3名、花と自然保護に1名が参加した。夕食後には交流会があり、なにしろ参加者170数名で食堂も一杯で全体が見渡しにくかった。九プロ主催からの挨拶、九州各県労山の各会の紹介等があり交流しあった。



2日目は5分科会があり、小生は妻岳 1145m(御岳経由)に参加した。宿舎を8時に出て登山口まで約30分、9時出発で約1.5時間で御岳頂上、ここから往復1.5で妻岳西側に岩峰のが刀剣岳が見えたが眺望はこの方向のみ。登山開始すぐにこの山域にだけあるあるというタカマホトトギスを初めて見た。黄色の大きな花卉・その中央にほととぎす特有の冠がある非常に綺麗な大型の花であった。妻岳への分岐近くにミカエリソウの大きな群落があったが未だ開花は



少なく蕾の大群生であった。

(中須賀 記)

**(感想 4)**朝、昼、晩としっかり食べて飲んで、帰って体重計に乗ったら1.5Kg増えていました。帰路の飲酒によるものでしょう。(松岡 記)

**(感想 5)**鹿児島までは遠かったが、分科会も有意義で、御岳山行も素晴らしい景色と花々、また人々との良い出会いがあつて楽しかった。(工藤 記)

**(感想 6)**「元気の出る集会」は鹿児島の高隈連山で九州各地から173名の参加者を集めた。

1日目の分科会は観天望気、2日目はクライミングウォールに参加した。見上げる壁は高



くて、へばり付きながら挑戦したが、やっと中程位までアウト。すんなりと上まで登らせてもらえなかった。次回は上まで登ってタッチしたいと思った。(國分 記)

**(感想7)**「第14回元気の出る集会」に参加して

2015年9月12日、13日の両日、地元日本勤労者山岳連盟九州ブロック協議会、とくに地元の鹿児島勤労者山岳連盟が主になり、立派な“国立大隅青少年自然の家”で開催されました。当日(12日)分科会では私は③の「山の歌」のグループで、本館2階でギターの伴奏で声を出し合い、楽しくすごしました。



翌13日は「佐多岬散策」を希望しました。当日天候は上々で御崎神社、展望広場にと坂を上り、歩を進めると木立の中はガジュマルとソテツの見上げる程に大きく育ち、うっ蒼たる林にその側を一人で通るには圧倒されそうで、こわごわ通り過ぎました。

展望広場から見る佐多岬の海上は穏やかで、海の方に目を向けると白い灯台が前方に見える岩場に建っているのが見られました。

もし、行けたら行って見たいと思い係りの方に尋ねると「あの島は離れているので、歩いては行けません」と言われ断念しました。” 青少年自然の家“に帰着いたのは「佐多岬散策」グループが一番でした。

諫早に帰る準備もゆったりした気分で出来ました。

やっぱり、長崎から鹿児島迄遠かったです。皆様大変お疲れ様でした。(佐原 記)



タカクマホトトギス



**9月20日(日)**

### 木山内岳(1401.2m)技術研修部

【参加者】川原 山下(ち) 鎗水 田中(静) 小熊 松岡 高森 下釜 林(和) 國分 福岡

【行程】諫早駅裏 5:00～西諫早駅 5:10～大分米良 IC8:27～藤河内溪谷登山口 10:10  
観音滝 10:40～喜平越 13:05(昼食)～木山内岳 13:50～下山開始 14:05～観音滝 15:55～登山口 17:00～西諫早駅 22:25

【感想】

今日は出発が5時と早いので、目覚まし時計を4時に合わせて起きる。家を出る時に奥

様から普段は早く起きないのに山の時は起きるのねと、冷やかされる。空を見ると満天の星、何か良いことが有りそうな予感。ワゴン車が来ると思っていたら、マイクロバスだったので余裕が有り長時間乗っても疲れないので良かった。

国道と別れ林道に入るが、マイクロバスがやっと通れる程の道で、右下を見ると深い谷で怖い、対向車が来ない事を祈る。諫早から約5時間で駐車場に着いた、広くてトイレも有り周りの景色も綺麗でした。登山口はここから200メートル先の橋のたもと、橋の上から見る溪谷も絶景でした。山道に入ると、溪流の音とともに吹き上げてくる緑の風がなんとも気持ち良い、木道が幾つか有り、その中には強大な一枚岩の中ほどの斜面に取り付けられた木道、手摺は有るが足元が滑りやすく下を見ると高度感があり恐ろしかった。

沢に架かった雰囲気のいい木橋を対岸に渡るのですが手摺が無いので危なかった、沢に沿って樹林帯を進む、沢の水も綺麗で大小の岩石の上を流れて行く、自然の素晴らしさに感動しました。

滝があり小さな石の観音様が祀られていました、観音滝の滝壺へ下って見た、落差74メートルで岩壁が鱗状で表面を滑るように落ちていく水が特徴だそうです、飛沫を浴びて輝くさまは圧巻でした。



滝の分岐点からが本格的な山道で、木の枝をつかみながら急斜面を登って

行くと滝の上でした、沢を渡りテープを頼りに樹林帯と沢沿いの道を進む、緑豊かな森で樹齢が数百年もたつような木があったり原性林が見事で、これまでに味わったことの無い様な満足感、今日は来てよかったと思いました。沢沿いにわずかにあるテープに導かれ、右に左に流れを渡りながら高度を上げて行く、つかみ所の少ない急斜面の小尾根を登る、左に谷を見ながらトラバースをしたり、四つんばいになって登る、今回の山で一番危ない所でした。谷筋の土の急斜面を喘ぎながら登り喜平越に出た。(尾根)

ここから頂上へはまた急登で30分かかり、足が疲れて上がらない、気持ちで登る、途中木の間越し小積ダキ、坊主尾根と、奥には大崩山の核心部が一望出来た事はよかった。スズタケも枯れていて思っていたよりは展望が開け、傍らを吹き抜けてゆく風が体に心地よい。

下山は急斜面や滑りやすいガレバが多いので注意をして歩きましたが、滑ってしまい太ももと薬指を打ち痛い。険しい山でしたが、原生林と溪谷が綺麗な山で、心癒される素晴らしい、木山内岳でした。(福岡 記)

**9月22日(火・祝)**

**高見山(538.1m)・女岳(500.6m)・鬼木の棚田(自然保護部)**

(参加者) 中里、鎗水、山口、松岡、野中、林(孝子)、兵庫、小山、大久保、中野、工藤、坂本 (12名)

(行程) 西諫早駅 8:00～岩屋口登山口 9:40～犬の墓 10:00～高見山(538m)11:00～女岳(500m)11:40～高見山麓 12:10～車道～岩屋口 14:30～鬼木棚田 14:40

(感想) 初めはなだらかな坂道であったが犬の墓前後で急な登りになった。この犬の墓の由来も徳川時代に猪狩りに犬を使い岩下へ落ちたところから村人で墓を作ったとの事。

よほど猪が多いらしくいたる所に穴が作られていた。

女岳は頂上がわかりづらく、最初の所は景観が悪く狭い場所なので標識を探したのだが見つからずリーダーに聞いたら違うという事で、それから10分歩いた所にあった。ちょうど、12時位になったので、女岳で食事をとった。

帰りは、元来た道に戻ろうとしたのだが、下りは坂が急なのでやめて高見山から車道を歩き岩屋登山口に着いた。

鬼木棚田は前回に比べて数は少なくなっていたが、今年話題になった案山子ならべられていておもしろかった。特に、火花、百寿のおばあちゃん・日本エレキテル連合、老孫の休日、沢、澤ちゃんのウェディングドレス等服装もこっていて楽しい一日でした。

帰りは彼杵の道の駅に寄って買い物をして帰路についた。

(坂本 記)



9月27日(日)

### 石谷山(754m)、九千部山(847m)山行部

(参加者) 鎗水、田中(静)、兵庫、松岡、山口、山下(文)、小熊、高田、大久保、間ノ瀬、工藤、下釜、山下(ち)、吉川、岩永、高森、林(孝)、小山 (18名)

(行程) 西諫早 6:30—大村高速バス停(小熊氏合流)—金立—7:10 東背振 IC—中副を左—国道31号—立石交差点を左—御手洗水の滝キャンプ場 8:30—石谷山 10:20—九千部山 11:25(昼食)—12:00 下山(縦走路)—12:15 頂上に引き返す—石谷山 13:18—御手洗水の滝 14:45—キャンプ場駐車場 15:10—西諫早駅 16:40 (山の部分は1,2班の行程のみ)

(感想) 九千部山はうち続く風水害を治めようと僧隆信が願をかけ、一万巻のお経を読む途中、九千巻で死亡したことにその名の由来があるらしい。そのような雰囲気の色濃くあるのは転石からのルートで不動明王などが祀られている様だ。

今回は、御手洗水の滝の横を少し登りまらずは石谷山へ。9月も終わりなのに暑い毎日である。それでも沢沿いの登山道は、時々吹く風が心地良く沢を3度程越えて次第に高度を増して行った。頂上直下の急登はきつかったがT氏のリーダーぶりが良く、こまめに休憩を取ってくれて助かった。



ツルニンジン

石谷山の頂上は見晴らしもきかず九千部山への通過点と言う感じ。時々登山者が来るが、少し休んですぐどこかへ歩いて行ってしまふ。我々も集合写真を撮ったあとすぐ九千部山へ向かった。

こんどは、ゆるやかな道で途中から歩きやすい九州自然歩道になった。キノコの多い山道でひょっとして食べられるのでは？と後から来ている S さんに聞いて見たがいずれもダメと言われてしまった。工藤さんはギンリョウソウを見つけて教えてくれた。このルートからは基山に縦走出来る事がわかった。背振山系の北の端である。

九千部山はあっけないほどすぐ到着した。頂上まで車で行ける TV 搭だらけの広場の側だった。二階建ての展望台の周りはヤマボウシの赤い実がなっていた。この実は食べられるが届くところに生っていなかった。昼食を済ませ帰りは 2 班が先頭に行く事になった。

来た時より南東の方に石谷山縦走路という標識を見つけてここを降りましようと言う指示のもと、どんどん南下していたら遠周りになりそうなので戻るように言われてまた、頂上近くまで引き返した。新しいルートに行く時はコンパスを合わせておけばよかったが、それもせずに出発したのだから仕方が無いと思った。



下りは往時よりもっと楽で、どんどん下りていたら石谷山を過ぎて沢沿いの道にかかろうとした時、3 班のメンバーから携帯に着信があった。Y 氏に代わると道に迷ったとの事。急いで Y 氏が下りて行った。

我々は相変わらずゆっくり下りて御手洗の滝との分岐まで着いた。急な下りがあるがそのまま登り返しが無いと聞くと皆、滝への下りを希望した。そこを緊張して下りて行くと



Y 氏が両手を高く振って待ち受けてくれていた。ここの御手洗水の滝はスケールもそこそこ大きくて涼しい飛沫を落とし登山の汗も引いて行った。幸か不幸か、この後の温泉も予定が遅れているとの事で中止になった。でも、場所が近いので諫早に着いたのは 5 時前で大相撲の優勝決定戦の場面を TV で観る事が出来た。秋空のもと、快適な山歩きが出来た。

(山下ちず子 記)

**10月9日(金)**

### **倉岳(682.2m)・矢筈岳(626m)ひまわり山行部**

(参加者) 兵庫、福岡、高田、山口、中野、中須賀、白石、林孝子、小山、山下文代  
佐原、森、工藤 (13名)

(行程) 西諫早駅 6:30~7:50 口之津港 8:00 フェリー 8:30 鬼池港 8:40~9:20 棚底駐車場  
9:40~10:50 パラグライダー基地 11:30~12:15 倉岳(昼食) 13:00~14:00 矢筈岳  
14:10~14:45 倉岳駐車場~15:45 鬼池港 16:00 フェリー 16:30 口之津港 16:20~  
17:50 西諫早駅

(感想) 30 数年ぶりに天草を訪れるので、少々気持ちが高揚していた。

社会人になって、初めて一人で 1 現場を任されたのが隣町の龍ヶ岳町であった。

責任の重さと不安のなか、日々一喜一憂したことを思い出していた。(チョットおおげさか・・・近くの看護学校の女生徒にも多少お世話になったかも?・・・)

それはさておき、今朝は朝早いこともあってか、またドンヨリした天気の子のせいも言葉も少なく静かな出発となった。

しかし、途中の道路が狭く、工事中の箇所もあり思うように進めず、フェリーの時間が気になり、みんながガガリ始めた。また、よりによって前 2 台の車が、10 t 貨物車その前が軽・・・ババ商店とジジ運転の車、口之津港は遠かった。

倉岳の麓の駐車場までには、なんとか予定どおりの行程となって一安心。

さあ一出発、水路際歩行中いきなり“へべへべ”の声、なんと毒蛇の「ヤマカガシ」のお出迎えである。しかし、女性群を始め誰一人として騒がず、「冷静沈着」か?

へべ? さすが心強いメン (Y 女史も来ればよかったのにと誰かが・・・)

爽風をうけて、頭を垂れた稲穂と満開のコスモス、開花まじかのツブキなどを愛でながら 40 分程歩くと倉岳登山口に着いた。

この入口は、棚底城 (国指定史跡) の登城口でもあり、戦国時代幾多の戦いが繰り広げられた歴史を持つ城跡で、直下で中国の陶器など約 2000 あまりの遺物が発見されて、天草の戦国時代の城壁として、非常に重要なものとされる。

登山道はなかなかの急登で、徐々に言葉も少なくなり、落ち葉を踏む音、時おり聞こえる小鳥のさえずり以外の音はなく、ただ黙々と足を進めた。

50 分程でパラグライダー基地に到着。全員でいっぷくする。

「サー地図読みの勉強をしよう」と H 氏。するとパラグライダーの準備をしていた謎の外国人 (15 年以上天草にに住んでいるカダ人) 夫婦が、頼みもしないのに流暢な日本語で自己紹介と、山の説明、はたまた地図読みへ参加して指導する始末。我々も初めてのパラグライダーとあって珍しさも手伝い、飛行するまで見届けて 30 分ほどの時間をロスした。

倉岳山頂まではまた急登で、僕も少しひざに違和感を覚え始め、前者との間が開き始めた。

つい立ち止り、後を振り向くと 2 班の先頭である S 女氏がヒタヒタと・・・

やばい、一寸あせる。気合を入れ直し何とか登頂「やった!」と小声で一人感激する始末。みんなの健脚ぶりに驚く (マダマダだなー)

山頂ではまた、あのカダ人夫婦が 2 機のパラグライダーで空から「これみよがし」と頭上を飛行してアピールする。

こちらまげじと手を振ること 3, 4 度、なんとも微笑ましいまるでドラマを見ているよう。全員で記念撮影後昼食にしようとしたとき、今度は地元のおじさんの登場。「遠いところへよくきなさったなー」と出迎えの挨拶のあと突然に名所旧跡の説明を始める。N 女氏他 4, 5 名は疲れと空腹もあり、軽い会釈を返しただけで昼食へと・・・おじさんすみません。

後で聞いたことだが、N 氏他 3, 4 名はその「エジキ」となって 30 分間おつきあいをしたとのこと。



倉岳に3名を残し、トイレのある駐車場で待つことを決めて矢筈岳に出発。木立の中の自然歩道を歩くこと40分で山頂に到着した。ここは展望も開けて天草の島々が遠くにかすんで見える素晴らしい景色、空気もウマイ。

道中では、アケボノソウ、ヒコドリソウ、優雅に舞う「アサギマダラ」の歓迎を受けた。心あられるひと時である。

矢筈岳からの復路は20分程であったが、ここでもハプニング発生。集合場所の駐車場にある3名がいないことが判明、連絡も取れず「すわ! 遭難か」はたまたまフェリー時間がせまりみんなあせる。数分後無事下山確認ホトため息。

事情を聴くと、下見した時のトイレがなくなっていた? 不可解と思ったそうだがああ勘違い。(実は駐車場は2か所あったのだ)

登山者にとってトイレは必要不可欠、目的が違うとただの「ハカ」にすぎぬ。



アケボノソウ

帰りのフェリーの中で皆と飲んだビールは、格別の味がした。渴いたのどを潤し、疲れた体にほどよい倦怠感を与えた。

今回は最初から時間に追われ、予期せぬ出会いとちよつとのハプニングがあったが、リーダーのかたがたの機転と好判断、全員の協力で無事計画通りの山行となった。

あらためてオレンジハイキングクラブのチームワークのよさと、たのもしさに感動した。

企画されたスタッフ及び同行の皆さん、本当に楽しい充実した時間を有難うございました。

(工藤 記)

(文中写真は山下文代さん、白石さん携帯で)



アサギマダラ

おれんじニュース 308	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡 正 廣
編集責任者 及び 編集委員	山下ちず子 〒854-0074 諫早市山川町 12-7 TEL 0957-25-3173 / 090-7166-7844 e-mail:chizuko@icv-net.ne.jp 福岡正廣、兵庫芳隆、中野美津子、山口いつ子、 林 和子、山下文代、鎗水律夫
発行年月日	2015.10.28
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	<a href="http://orangehikingclub.com/">http://orangehikingclub.com/</a>

今月も少し早目の編集になりました。しかし皆様のご協力のお陰で原稿が沢山集まりました。鹿児島での集会は7名の方が文章を書いて下さいました。ページ数も2ページ多くなりました。倉岳(天草)の感想、K氏の筆がさえていますね。オレンジの芥川賞を差し上げたい気分です。(笑い)  
(山下ちず子)